
イター×魔法少女×魔法少女 ディケイド&リリカルなのは&まどか マギカ～スピンオフ劇

トーマス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 デイケイド&リリカルなのは&まどか マギカ〜スピノフ劇場〜

【Nコード】

N9220Y

【作者名】

トーマス

【あらすじ】

仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 デイケイド&リリカルなのは&まどか マギカ クロス大戦のスピノフが、ついに登場！！各キャラクター達による、笑あり涙（あるのか？）（グロ無し）のドタバタの昔話による劇や色々と繰り広げた為に、周りほとんどもないカオスな状態で大暴れ！

・本編のクロス大戦との繋がりはありませんが一部、原作のネタバレが含まれていますので閲覧には気をつけてご了承ください。それ

と、特別ゲストも参戦します。

『シンデレラ』（前書き）

はやて「この度、仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 デイケイド & リリカルなのは&まどか マギカ クロス大戦が予想外にも5万 いったちやったので、スピンオフ作りましたー」

キバット「まあ、アレだよなー作者自身もここまで伸びると思っても見なかったらしいぜ」

はやて「『どうぞ、良くっても1万程度だろー』って思っていたそうや。」

キバット「そんなでもって調子に乗って、スピンオフだよ。本編だつて、あんまり進んで無いのに、これだよー」

はやて「そうやなーアクセス数が伸びても、ポイントが中々伸びても無いのに、よくやりおるわ」

キバット「本編の一部でドタバタやり過ぎて、お気に入り数が減ったよなー」

はやて「うんうん。それで、少し真面目に書いたら、残酷な描写ありな話にしたら、それでも減ったわなー今は落ち着いているけど」

ユウスケ「誰があのだ二人止めだよ」

まどか「もう、作者の本音語ってますよ…」

はや・キバ「そんなこんなで、スピンオフ第1弾・シンデレラ始まるよー」

『シンデレラ』

はやて（ナレーション）『むかーしむか…って、杏子ちゃんちょっと聞いてええか?』

杏子『なんだよ、はやての姉ちゃん? 続き言わないのかよ?』

はやて『前から思ってたんだけどな、このむかーしむかしって、どのくらい昔なん?』

杏子『えーっと…って、知りませんよ! そんな作り話の時代なんて!』

はやて『まったく、これだから作り話は困るんやーせめて、ちゃんとした時代設定を考えて欲しいわー』

杏子『知るかあぁー!! 第一、子供が見る本なんだから、細かい設定なんて作っても子供は興味出ませんよ!』

はやて『それ一理あるわ。てな訳で、なんやかんやで昔々、ある国にシンデレラって子がいたそうなー』

杏子『なんやかんやって、適当過ぎたるおおおー!!』

はやて『しかしシンデレラは継母と二人の姉に毎日毎日、メイドのように扱き使われていたそうやー』

オクタヴィア（継母）『ガァァァー!!（シンデレラ! ちょっと来なさい!）』

セミロング・さやか（シンデレラ）『な、何でしょう…お、お母様

…』
オクタヴィア『ガァァァー!!（何でしょうじゃないわよ! 部屋が汚いじゃない!）』

杏子『シンデレラはセミロングのさやかで、継母は魔女のオクタヴ

イアかよ!?まだ、クロス大戦本編にも出てないのに出して良いのかよ!?!」

はやて『一応、原作ネタバレって書いてあるから平気や』

杏子『聞いてないよ、そんな話!そもそも、あのオクタヴィア何処から連れて来たんだよ!?!』

はやて『えーっと。丁度さやかちゃんが失恋して、フラれて泣いてその腹いせに悪さしたい願いで、産まれたばかりの魔女や。原作のまどマギ8話の最後の所からかな』

杏子『そこから連れてくるなあぁぁー!?!それと、何であるオクタヴィアは普通の演技してるんだよ!』

はやて『まあ、コメディーって事で。笑って流して欲しいな、そこお姉さんとお約束や!』

杏子『そんな事でどうでも良いから、早く続きを始めて!話が止まってるから!』

はやて『あー大丈夫や。私がナレーションしなくっても、勝手に始めてくれるよ』

セミロン・さやか「あ、はい……」

オクタヴィア「ガアー! (くずくずしないでさっさとしなさい!)

はやて『えっー実際、オクタヴィアのセリフが『ガアアアアア!』から『ガアー!』になったのは、作者が面倒!って、事で投げやりに変わりしましたー』

杏子『そこまで言わなくて良いんです!ああもう!継母はシンデレラに対してとても意地悪でした。そして、シンデレラは継母の言う通りに散かった、食器を……』

セミロン・さやか「あう!」

杏子『 豪快に転んで、食器を割り……っ！このさやかドジっ子！？』
はやて『なかなか萌えるやろ？ドジっ子属性のセミロングのさやかのシンデレラ。しかもクマさんパンツ！』
杏子『聞いてねよー！！けど、クマさんパンツのさやか嫌いじゃない！』

オクタヴィア「ガァー！（これで今日何枚割ってるんじゃないやああああー！！）」
セミロン・さやか「あう……う、ごめんなさいですう……」
オクタヴィア「ガァー！（ごめんて済んだら、魔法少女と仮面ライダーと魔女は存在しないの！！）」 『そこは同意！by杏子』

「シンデレラー！」

はやて『豪快に転んだため、鼻血がダラダラ出ているシンデレラを呼んだのは、継母の実の娘でシンデレラの義姉の二人……』

Mフェイト（義姉1。赤いメツシユが入った逆立った髪）「おい！シンゴリラ！俺のプリンは何処だ！？」
シヨウイチ（義姉？その2。何故がア　クと同じ髪型）「何で俺が義姉役なんだああああー！！？」

杏子『何で義姉がシヨウイチのおっちゃんとモモタロス何だよおおお！？むしろ、モモタロス追い出して、普通にフェイト姉ちゃんが良いだろ！？それと、おっちゃんの髪型をアン　風にするな！！』
はやて『まあまあ、普通に女性陣の誰かにしたら面白くないやんかーだから、ここは男性にして面白おかしく……』
杏子『するなあああー！！……』

シヨウイチ「あーそのなんだ、劇の台本通りにしたい。だから、すまないが俺の服を洗ってくれ。それとこんな劇、早く終わらせたい」
Mフェイト「いいから、さっさとプリン出せー！シンゴリラ！」

杏子『この馬鹿桃！さっきから名前間違えるんじゃないやねええええー！
ー！』

~~~~~

はやて『そんなこんなで、シヨウイチ義姉さんの服を洗濯する為、家の裏井戸から水を汲み、桶でゴシゴシ洗濯するシンデレラ。』

誰や？こんな寒い11月に手洗いで洗濯するって、台本に書いた鬼は？』

杏子『アンタだろおおおおー！ー！』

さやか「あう……お父様、どうして私を一人にするの？」

はやて『えーシンデレラのお父様は遠くの町で不幸な事故により、この世から去ってしまったんや……』

### 回想

シンデレラのババ

QB『君達、魔法少女になれる素質があるね！僕と契約して、まほ

……あばあー』

まどか（町娘）「きゃあああー！ほむらちゃんが変な生き物を蜂の巣にして殺しちゃったよおー！」

キヤロ（その2）「この人で無しー！！」

ほむら（その3）「ほむっ！」

回想終了



杏子『確かに不幸な事故だけど、あいつが親父役かよ!?それと、ほむらああー!ドヤ顔でこっち見るなあああー!!』  
はやて『そんな可愛そうなシンデレラをナズエミテルンデイス!!  
なネズミがいました』

杏子『オンドウル語で言わない!』

キバット(ネズミ1)『うほっ!いいおっぱい!揉ませる』  
エリオ(その2。何故が電気ねずみのコスプレ)『何で僕この衣装なの?』

杏子『エリオはどうでもいいけど、駄コウモリいいいいー!  
!何で、コウモリがネズミ役なんだよ!?それと、今も台本通り!?!』

はやて『ちやうよくキバットとモモタロスだけは、全てアドリブや!』

杏子『何でアドリブにしちゃうのおおおー!?モモタロスは良いけど、キバットの事だから完全にアウトな発言言っちゃうよ!  
今すぐ、台本を修正に...』  
はやて『却下』

さやか『こ、こんにちは。ネズミさん』

キバット『おいおい、このさやか良いおっぱいじゃねーか!少し揉ませる』

さやか『うえええー!?!』

キバット『まったく、何だよこのさやかのおっぱいは!原作のさやか以上でマミと良い勝負の乳だ!このピーチおっぱい!俺とあぎゃああああー!?!』

ティアナ(黒子?)『はーい。駄コウモリは不幸な事故によって退場しまーす』(両手にはクロスミラーシユを構えている)

スバル（黒子？）「あつ、私たちは黒子だから気にせず続き始めて！」

エリオ「（そうしたいけど、僕にセリフは…）」

さやか「あつ、良いんだよ。私、洗濯と掃除嫌いじゃないよ」

エリオ「（すみません…僕何も言ってます）」

はやて『因みにセミロングのさやかちゃんのおっぱいは、中々の熟した桃やで！でも、シグナムの乳の方が最高やー。そんでもって、その時や！お城の人がやってきて、パーティの招待状を持ってきたんやー！』

杏子『普通に言ってるけど、いつの間にあっちのさやかのおっぱい触ったんじゃああああー！！ちくしょー！あたしも……って、これ以上言えるかあー！（ノノノノ）』  
はやて『ウフフフ…ツンデレやな』

オクタヴィア「ガアー！（まあ、お城のパーティですって!?!）」

シグナム（お城の人その1）「（何言ってるんだ、この魔女は…?!）まあ、そうだ。是非とも来てくれ。」 適当に答えた

シヨウイチ「行きたくねえ……」 心からの本音

Mフェイト「プリンー」 これもアドリブ

シグナム「すまん、くっ…芦河殿。くっ……では、さらばー！」

杏子『アレ。普通に言ってるけど、シグナム姉ちゃんどう見ても、シヨウイチのおっちゃん女装に笑いに耐えているよね!』

オクタヴィア「ガアー！（なんでもお城の王子のお妃を決めるパーティらしいよ!）」

シヨウイチ「マジ行きたくねえー！もう帰って良いか!?!」

Mフェイト「んなことより、プリンまだー?」

オクタヴィア「ガァー！（王子様に気に入られるよう、頑張るんだよお前たち！）」

シヨウイチ「話し聞いてた!?!」

杏子「もう、台本通りにやっているのオクタヴィアしかいなくないや、気持ち分かるけどさあ、おっちゃん!」

はやて「お妃様になれる!っと、聞いて!キヤーキヤー嬉しそうに喜ぶ義姉達!一人は早速ドレスを探しに、もう一人は御粧しに大慌てや!」

杏子「喜んでないからね!シヨウイチのおっちゃんなんて、もう涙目だよ!誰が助けてやれよ!それと、あたしもツツコミから助けて!!!」

はやて「そんな義姉達が喜ぶ中、シンデレラもナズエミテルンデイス!状態で継母を見ていたんや。」

杏子「あー大体分かった。渡そうと思ったら、暖炉に燃やされるんだろ?」

さやか「あ、あの…お、義母さま…わ、私も…ダメですよね?」

オクタヴィア「ガァー!（まあ、これはアンタ宛てだし…べ、別に行っても良いわよ!今回だけは特別なんだからね!!)」

さやか「あう…あ、ありがとうございます!」

杏子「予想外キター!?!それとシンデレ・オクタヴィア!?!ちょっと、これ本当に予想…!」

さやか「わーい!わーい!…あぎゃー!」

はやて「シンデレラは嬉しさのあまり舞い上がって転んで、そしてお城への招待状は暖炉に燃えてしまった!」

杏子「こっちの方が予想外だあああああー!?!何この不

幸ぶり！？ドジっ子じゃなくって、薄幸娘だよ！あれか！不幸の上条さんか！？それとも幸太郎さんの影響！？』

さやか「あああああー！？」（涙目）

シヨウイチ「これ、やるから代わりに行ってくれ。うん、マジで」

オクタヴィア「ガァー！（これはフォロー出来ないわ）」

Mフェイト「まあ、泣くなって。良太郎なら、今ので一緒に招待状と共に燃えてるぞ」

杏子「なんか、本当に予想外にも同情されているよ！これシンデレラだったよね！？この際、シヨウイチのおっちゃんの招待状で行っちゃえよ！さやかとおっちゃんの為にもさあ！』

はやて「そうは問屋が許しまへん！それから、シンデレラは家にお留守番で継母と義姉の二人はお城に行ってもうた！』

杏子「アンタって人はあああああー！！』

さやか「あうう…何でいつも、こんな目に遭うの…お母様」

はやて「シンデレラのお母さんも不幸な事故により、この世から去ってしまったんや…』

## 回想2

マミ（シンデレラのママ）「私、今の夫と別れて新しい夫と結婚するの…」

ワタル（その新しい夫…と言うか無理矢理結婚させられる少年）「たーすーけーてー！」

マミ「だから、もう何も怖」

シャルロット（旅人）「子供を泣かすなあ！」（マミった）

回想終了



なのは「貴女をお城のパーティに連れて行こうと来たんだよ」

さやか「ほ、本当ですか！？お城のパーティに連れて行ってくれるんですか、魔砲使いさん！」

なのは「うん！私の仲間が貴女を連れて行ってくれるの！」

さやか「仲間？」

はやて「そう言っつて、魔砲使いさんはシンデレラと共に外に出たんや。そして！そこにオーロラが現れて、その中から出てきたのは」

ディケイド（その仲間）「おーい。馬と馬車、連れてきたぞ」

アंक（特別ゲスト1）「誰が馬だ！」

カザリ（その2）「ちよつと、何で僕らを呼ぶのさ！？まだ、ME GAMAX始まってないよ！？」

ウヴァ（3）「つーか、誰が馬車だ！」

杏子「何でグリードオオオオオオオー！？いや、そもそも何で出すんだよ！クロス大戦にオーズ出てないよ！なのに何で！？」

はやて「特別ゲストのグリードの皆さんや。因みに、全員完全体なので、ご心配無用やな」

杏子「そうじゃなくつて、もしヤミー作られたら……」

なのは「良い3人（体？）とも、勝手にヤミー作ったら……全力全快（全壊）でメダル破壊するからね……」

アंक「カザウヴ……はい！」

杏子「あの姉ちゃんの事だから、冗談抜きの本気で破壊しそうな予感が……」

さやか「あのお……その前に私、ドレス持っていません……」

ディケイド「ん？それは大丈夫だ。写真館から色々あるから持って

きたぞ」

はやて『えー本当はここで、『ドキッ！さやかちゃんのモザイク無し  
の生着替え！ポロリも丸見えもあるんだよ！』なんです、これは  
小説の為、絵がありません。』 チッ！』

杏子『（さやかの為にツツコミたいけど、実はさやかの生着替えが  
超見たい！っと、言うジレンマに悩む）』

さやか（水色のドレスにスカートの部分に白のフリル。妙に胸元の  
谷間が見えている）「ど、どうですか…」（ノノノ）  
ディケイド「まあまあだな。大体65点って、所だな」

杏子『ドレス姿のさやかも可愛い！そして、何処が65点なんだ！  
？あのバーコード潰す！』

はやて『 っと、杏子ちゃんの心の代弁を私が代わりに語りま  
したー』

杏子『コラアアアー！！勝手に捏造して語るなああああー！！  
！！』

はやて『でも、着替えは見たい？』

杏子『…なあ！？』（ノノノ）

はやて『さつき、実は裏方のシンジさんに頼んで盗撮して貰ったん  
だけど…欲しい？』

杏子『くっ……そー！』

さやか『それで！どうやって、お城まで行くんですか？』

なのは『そののグリード。さやかちゃんを担いで運んでねー』

騎馬戦でもするかのよう、さやかを担ぐグリード達

アंक（正面）「クソッ！これが終わったら、アイス食わせろよな

「！」  
カザリ（右側）「もう、さっさと終わらせて欲しいんだけどね」  
ウヴァ（左側）「あの女共め！覚えていろよ！」  
なのは「それと、今更脚本通りに言っちゃうけど、12時までには戻って来るんだよー！」  
さやか「はーいー！」

はやて『こうして、シンデレラはお城に向かいましたー』

なのは「…今更言っけど、あのオーロラ使えば直ぐに着けるよねー」  
ディケイド「まったくだ」

杏子『何の為にグリード呼んだのおおおおー！？それと本当に今更言っけど、これ魔法じゃないよね！』

~~~~~

お城

恭介（王子）「あのお……これって、何の罰ゲームですか？それとあの怪物は何ですか？」
シヨウイチ「すまん。こんな、くだらない話に付き合ってますまん。けど、アレには声を掛けるな。別な意味で死ぬぞ」
オクタヴィア「ガァー！（恭介ええええええー！！）」
号泣）

恭介「は、はあ……」
Mフェイト「プリンまだー？」

ほむら（招待された人1）「きゃーおうじさまー」（棒）
まどか（その2）「このおんしらすーうまにけられてしねえー」（）

棒)

カズマ(その3女装1)「このさるがおのいっばんしみんー」(投げやり)

恭介「ちょよ!?よく分からない状態で連れて来られているのに、何で僕ここまで言われているの!?!」

オクタヴィア「ガァー! (恭介ええええー!結婚してえええええー!ー!ー!ー!)」

恭介「初めて会うのに、何処が懐かしい感覚が!?!けど、あの化け物、顔が怖っ!」

仁美(招待客)「まあ!怖いですわ、王子様!」(抱きつく)

オクタヴィア「ガァー! (怒りの嫉妬パワーあああああああー!ー!ー!ー!)」

ソウジ(その4女装2)「ところでおでんは無いのか?」

シャマル(お城の人)「ありますよー私の自信作のおでんなんです!」

ヴィータ(その2)「シャマルのデスおでんを食べたソウジのおっちゃん口から泡だして倒れたあああー!」

シグナム「シャマルううううー!?!」

リイン(マスコットキャラ)「早く医務室に連行ですうー!」

杏子「ちよつとおおおおー!これ、とんでもないドロドロな展開発動だよ!三角関係な空気が重いー!それと、他の皆は平然とスルーするなああー!?!」

はやて「そんなことは置いといて、お城にやってきたのは傷だらけのシンデレラが来たんや!」

さやか「あううう……途中で転んで顔が痛いよお……」

アंक「まさか道の途中でな……」

カザリ「あれは反則だよねー」

ウヴァ「バナナの皮で転ぶとはな。誰のせいだ？」

アंक・カザリ「そのバナナの皮で豪快に転んで、シンデレラを投げ飛ばしたのはお前だあああー！ー！ー！」

杏子「何やってるんだ！あの虫頭あああー！ー！」

はやて「ウヴァの事も置いて。一方では、オクタヴィアと仁美の壮大な殴り合いが始まっている中、王子こと上条恭介はシンデレラの元に向かったんやー」

杏子「その二人を誰が止めるよおおおー！」

恭介「えっと…（何だろう…このさやか、ちょっと可愛い）僕と踊ってくださいますか？」

さやか「」

はやて「ついに、夢にまで見た光景やなー」

杏子「これで、さやかも報われ……………」

さやか「すみません、チェンジで」

杏子「なんでだあああああー！ー！ー！？」

さやか「私、実は…ちょっと男の子っぽい女の子が好きなんです…なので、チェンジで」

はやて「ってことで、チェンジされて代わりに杏子ちゃんが王子様役に変更です」

杏子（王子代理）「聞いてねえええええー！ー！」

さやか「結婚してくださいー！」

杏子「ど真ん中のストレードに言ってきたよ！このさやか！」

キバット（代理のツッコミ役？）『もうこの際、おKしてベッドでゴールインしてよくな？』

はやて『そんでもっと、子供には見せられないシーン発生やな！』

杏子「するなああああー！ー！ー！」

さやか「イヤ…ですか？」（うるうる）

杏子「い、いや…そうじゃなくて…」

さやか「もしかして、小さい胸が好みでしたか？」

杏子「（どう返せばいいんだー！？ああもう！もし、あたしが男だったら、即コレクツテモイイカナ状態だよ！）」

はやて『ウフフ…面白くなってきた展開やな…』

キバット『ねーちゃんも悪だねーでも、嫌いじゃないぜ！』

カーン、カーン！

はやて『なんで、鐘が鳴るんねん！KY鐘！』

キバット『この際、もうちょっと先延ばして、二人がベッドの上で（ピー）で（ピー）するまで待つか』

杏子「出来るかああああー！オイ、一応台本通りつてことで、12時になったから帰ってくれ！頼むから！」

さやか「イヤです！」

杏子「話し聞いてた！？アッコ！こいつを連れて帰ってくれー！ー！ー！」

アッコ「誰がアッコだ！アッコ！」

杏子「うるせえー！誰がアッコだ！いいから連れて行ってくれ！この話の為に！」

アंकク「チツ　　これが終わったら、アイスパフェ食わせてもら
うぞー！」

さやか「あーねー」（ガラスの靴を落とす）

はやて『なんちゆうか…怪物にさらわれるお姫様やなー』

キバット『全くだー』

カザリ「あれ？僕たちいらなくない？」

ウヴァ「どうでも良いから帰りたい」

~~~~~

はやて『それから翌日やー王子は昨日の女の子を探すため、ガラス  
の靴を持ちながら町中探し回って、苦戦したそうやー』

杏子「だって、知っているからね！シンデレラがさやかだってこと  
も！」

キバット『まあーアレだ。このまま、ダラダラやっておけば良いん  
じゃね？』

杏子「出来る訳ないだろおー！わかったよ！行きますよー！」

はやて『ついに、愛しの少女が住む家に辿り着いた王子！』

キバット『ああー我が愛しの姫よー私が貴女の身と心を奪いに来た  
ぞー！』

杏子「（あの二人後で殴る！）おーい、失礼しまーす」

シヨウイチ「おっ、やっと着たな。連れて行ってくれ」

Mフェイト「コイツを幸せにしてやってくれ。」

さやか「あうう…私を貰って…ください」(ノノノ)

杏子「ちよつと！まだガラスの靴履かせてないよ!？」

シヨウイチ「そんなことどうでも良い！早く終わるんなら、さっさと連れて行ってくれ！」

杏子「えええええええー!?!?!?!」

Mフェイト「今すぐ、お城に連れて行け！」

デイケイド「任せろ」

はやて『デイケイドのオーロラによって、王子様とシンデレラはお城に戻り、2人は末永く幸せになったとさ』

キバツト『めでたし、めでたしー』

終わりー

『シンデレラ』（後書き）

スピノフ第1弾が本当に酷いW誰だよ、こんなに酷いシンデレラを書いた奴！（自分です）

スピノフの方はのんびり更新で行こうと思います

## 第2回！ 裸の付き合いは、色々楽しいよね！

士「今日は特別ゲストを呼んできたぞー」

一同「……はい？」

士「はい？ じゃない。特別ゲストだ」

さやか「えっ？ だって、今日もあのgod god劇じゃ……」

なのは「うーん。それがね」

ゼペリオン光線

ぎゃあああああー！ー！ー！ー！ー！！？

スバル「何、今の悲鳴？」

なのは「前回の劇で色々やりたい放題で暴れた八神部隊長に神の鉄槌を与えています」

ワタル「ついでにうちの駄コウモリも一緒です。」

フェイト「だから、暫くはあの劇はやらないよ」

一同「……た、助かったー」「……」

翔太郎「（一番ツッコミたいのは、誰があいつらを神の鉄槌を与えているんだ？）」

まどか「それで、その特別ゲストって、誰なんです？」

ほむら（？）「こっちのまどかも可愛いわ……」（まどかのパンツ、ガン見）

まどか「ほむらちゃん、何処見てるのおおおおー！！？」

????「ほむらあああー！！？」

「???? 早速変な印象与えないでえー!!」  
ほむら「ほむーん!」

謎の少女にツッコミキックを喰らうほむら。その勢いで、壁に直撃。

まどか「ほむらちゃん!？」

ほむら「呼んだ？」

まどか「ふえ!?! な、なんで……」

スバル「ほむらが二人!？」

士「やつと来たか、ファイズ」

「???? ああ、来て早々そっちのまどかに悪いことしたが。」

見知らぬ青年に壁に直撃したほむらの尻を蹴り踏みつけるまどかだつた。若干、尻を踏みつけられているほむらは、喜んでいるように見えるのは気のせいである。

スバル「って、まどかが二人!？」

ティアナ「それと、ほむらも二人いるわ」

さやか「これが、噂のゲツプルドンガーって奴!？」

ワタル「それを言うのなら、ドツペルゲンガーですよ。本当に馬鹿ですね」

さやか「誰が馬鹿よ! あんた、後で殴るわよ!」

マミ「殴ったら、ティロファイナーレよ。美樹さん?」 (満面の笑顔)

さやか「今のは冗談です!」

エリオ「あの、いい加減に本題をお願いします」

カズマ「以下同文」

杏子「左に同じく」

なのは「この人達は、亜雲AZさんの『仮面ライダー×魔法少女



555 MAGIKA ～THE LAST KNIGHT M  
ISSION～』作品に出てくる人達なんだよ。』  
士「どつちかって言うと、『仮面ライダー×魔法少女 555 M  
AGIKA 超スピノフ!』の設定だ。そして、この無愛想な奴  
がオリジナルのファイズ。『乾巧』だ」  
巧「誰が無愛想だ、デイケイド!」

Fまどか「来て早々、ごめんね。こっちの私」  
まどか「う、うん。ちよっと、驚いた」

Fほむら「……」  
ほむら「……」（お互い握手をするWほむら）

スバル「ねえ、あの二人無言なのに握手するの?」  
ワタル「似たもの同士、何か感じたんでしょ」

さやか「って事は、私達も来るって事!？」

杏子「あっちのあたしにさやか……何か嬉しいような、嬉しくない  
ような気が……嫌な予感が」

マミ「私も楽しみだわ」

Fさやか「いやあ〜ごめん、ごめん。これ探してたら遅れちゃった」  
F杏子「そもそも、何でこれ持つてくるんだよ」

つ シャルロット第2形態を模した筒に入ってたマミられたマミ風  
の棒

アン・さや「何か持つてきたああああー……!？」  
マミ「何、この私の扱い!？」

F杏子「ここが……名前長いから、クロス大戦の世界かあー」

Fさやか「そこ略さない!でも、長い」

さやか「うん、言ってる」

杏子「まったく」

マミ「何で、あっちの私は出て来ないのよ……………orz」  
シンジ「ケーキやけ食いた挙句にロールケーキにシャルロットって書いてフォークで滅多刺ししてシャルロットの怒り買ってマミかられたからだよねー」

ワタル「それに、あっちのスピノフでも現在謹慎中なのに、こっちで普通に出たらおかしいですもんね」

~~~~~

士「これで大体揃ったな」

巧「いや、まだ揃ってないんだ」

まどか「？私にほむらちゃん、さやかちゃんと杏子ちゃん。それと棒のマミさん。全員揃ってますよ？」

杏子「揃ってねーから。人って言うより棒だろ」

F杏子「あれでもマミって事で、スルーしてくれ」

さやか「スルー出来るもんなの？」

Fまどか「うん」

士「それで、残りはまだ来ないのか？」

巧「あいつの事だから、そろそろ……………」

バジンたん「キャーご主人様〜」

真理「ちよつと、勝手に行かない!!」

バジンたん「黙れ、影薄ヒロイン（笑）」

士「アレか？」

タクミ「隣の娘、メイド服着ていますね」

ソウジ「君の趣味か？」

巧「俺に聞くなああああー！！！！」

ワタル「僕的には、その隣の人が気になります」

Fさやか「それで、こっちのファイズって誰？」

タクミ「僕がリイマジネーションの仮面ライダーファイズの尾上タクミ。よろしくね」

Fさやか「う、うん。よろしく、タクミ！（なんか、巧より弱そう
で頼り無さそう…って、何考えてるんだ！あたし！！）」

さやか「こっちが、ファイズの人？」

巧「乾巧だ。」

さやか「よろしくお願いします、巧さん！（…なんか、タクミさんより頼り無さそう）」

巧・タクミ「」（同じさやか（ちゃん）なのに、何故こっちも違う！
？）」

ワタル「……………」

真理「さつきから、見てるけど何か用？」

ワタル「どこから見ても、クイーンにそっくりですね」

真理「クイーン！？」

カズマ「クイーンって、確かファンガイア女王でアポロガイストの花嫁になった奴だよな」

ユウスケ「言われて見ると、うん。そっくり」

真理「ちよっと、それ人ちが…（顔ギリギリで、何かが掠る）…って、何！？」

マミ（病みさん）「女王って事は、将来ワタルくんと…ウフフフ、
邪魔者は今のうちに排除おおおおおおー！！！！！！！！！！」

一同「マミが暴走したー！！」

ファイマギー同「何あの(巴)マミ(さん)！？」

それから、マミは真理を襲い始め、巧ファイズAFのアクセルクリムゾンスマツシユとワタルのダークネスムーンブレイクを喰らって頭を冷やされました。

Fさやか「あんなに必殺技喰らっても生きているなんて、あのマミさん異常だよ！？」

F杏子「あたしの気のせいか、その内本編でのこっちのマミが『巧さんは私にとつて一番大切な人なんです！真理さんには渡しません！』って病み状態で言つて、真理の姉ちゃんを襲いそうなのは、気のせいだよな？」

Fまどか「き、気のせいだよ！…多分」

~~~~~

巧「とりあえず、ファイマギー組は全員揃った」

Fまどか「本当はおりこさんやキリカさん、ゆまちゃんも呼びたかったんですが」

シヨウイチ「呼んだら呼んだで、色々大変になるな」

巧「それで、これからどうするんだ？」

士・なの・フェイ「……………」

巧「なぜ黙る？」

なのは「にやはははは…」

巧「なぜ笑う！？」

士「実はお前らと一緒に、チビタヌキ作の劇をやるつもりだったんだ。お前主役の桃太郎」

巧「オイ！」

ソウジ「衣装は俺が製作してたんだ」

つ 某サムライワールドに住んでいた炎神が着ていた服装。  
巧「……それで、そのタヌキって奴はどうした？」  
一同「たった今、星になりましたー（笑）」  
ファイマギー同「笑って言うなあああー！」  
杏子「って、どうするんだよ！このままじゃ、企画倒れだろ！」

「ちょっと、待ったあああああ  
！」

Fまどか「誰？」

ワタル「そのタヌキさんです。 チツ」

アスム「軽く舌打ちしませんでしたか？」

はやて「本当に死ぬところだったわ……でも！私にいい考えがある  
！」

ワタル「なんですか、その失敗フラグ」

F杏子「どつかの司令官みたいなこと言ったよ！？」

スバル「そして、崖から落ちるフラグでもあるね！」

はやて「ウフフフ…ええか！大体、こんなに集まったんや！ここは  
親睦を深める為に……」

クロス大戦一同「「イヤな予感が……」」

はやて「ここは、皆で銭湯やー！」

一同「はあ!？」

~~~~~

と、言うことで銭湯。それと、銭湯なのでタオルは付けていません

(笑)

言い忘れましたがファイマギー組はFと付いています

エリオ「こんなのおかしいよ……」

ワタル「訳が分からないよ」

アスム「でも、気持ちいいー」

エリオ「う、うん。普通なら気持ち良いんだけど……」
ワタル「ユウスケやあっちの巧さん達と親睦深めたいけど……」

Fほむら「まどか…ハアハア！」

F黒まどか「ほむらちゃん……いつまで、私の胸見てるのかなー？」

(拳を握る)

まどか「あっちも大変だね。そう思わない？ほむ……」

ほむら「(潜って、まどかの秘所を)」

まどか「オイッ！」

はやて「そう……これや！本当は本編でも見たかったんや！あの未熟な果実と熟した果実！弾けて揺れるプリンの如く！ぷるぷるぷるぷるなおっぱいが！益々、揉みたいわー」

なのは「すみませーん！隣にいるシヨウイチさん、後で、はやてちゃんに説教お願いしまーす」

フェイト「ついでに、土とシヨウイチさん。ディケイドCFの力でシャイニングフォームのシャイニングライダーキックもお願いしまーす」

はやて「ウエエエエエー！！！」

シヨタ3人組「何で、僕らここにいるんだろう……」

(キャラとマミに強制連行させられました。アスムはそのオマケ)

~~~~~

その1・他作品同士のクロスオーバーではよくあるライダーヒロイン同士

夏海「いい湯ですなー」

真理「本当だわー」

夏海「ところで真理さん、ちょっと聞いてください！私の扱いを！クロス大戦では中々出番が無いのに、この前キバーラに変身して出番ある！って、思ったらあつと言う間に、終わりですよ！何ですか、この扱いは！！」

真理「あ、あの……」

夏海「私だって皆のようにフォローしたり、捕らわれのヒロインをもう一度したいです！なのに……なのに……」

真理「その気持ち。よく分かる！私だって出番少ないもん！大体、久しぶりに出番あつても、空気だし……巧なんて、マミちゃんたちに構ってばかりで、私に構ってくれないし（ノノノ）」

夏海「よかった……仲間がいました。私も土君に構って欲しいです」

夏海・真理「クロスオーバーだと 私たちって本当にクウ

キ

他の女性陣「なんか、色々本当にすみませんー！！」

巧（聞こえてた）「……で、どうする？」

士（同じく）「知るか。で、お前はどうするんだ？」

巧「俺より神（亜雲AZさん）に聞いてくれ」

~~~~~

その2・トリプルさやか

Fさやか「それでさ、そっちはどうするのよ？」

さやか「……まあ、あの年増っぽい魔女にあんなこと言われたら……で、そっちは？」

Fさやか「うーん。こっこのマミさんは現在、某伝説の銃使い及び、校長先生な人状態だし……それに」

さやか「それに？」

F さやか「あいつの夢を守りたい……」(ノノノ)

さやか「やつぱ、私たち……」

F さやか「同じだね」

オクタヴィア「ガアー！(そんでもって、この際、私のようになっちゃえー)」

W さやか「それは嫌だ！」

オクタヴィア「ガアー！(嫌だっって言っても、そうなる運命よー特にファイマギは危ないわ。どうせ、どんなに頑張っても恭介は仁美に寝取られる運命だし。変えられる事も無いわ)」

W さやか「orz」

オクタヴィア「ガアー！(まあ、頑張れw)」

~~~~~

その3 苦労人同士の愚痴

杏子「出番あるくせに、こっちは毎回毎回マミのフリーダムに付き合わされて、ツッコミやらされて、絶叫キャラだよ！あたし……あたし……」

F 杏子「出番あるだけ、まだマシだよ。こっちは、スピンオフでもそれなりに、頑張っているけど、未だに本格参戦してないし参戦しても……」

杏子「さやかと戦うんだろ？こっちなんで、一緒にいるくせに、さやかとの絡みが無いし」

F 杏子「本当はさよかの背中を守りたいのに……」

杏子「あーそれ、あたしも同じだわーでも」

F 杏子「でも？」

杏子「ツッコミと絶叫と言う魔の手が……」

F 杏子「うん。頑張れ」

~~~~~


その4・お前らそこ変われ

ワタル「……さて、そろそろ言っても良いかな？」

エリオ「言っても良いと思うよ」

ワタル「マミ。お願いですから、離れて下さい！」

マミ「何言ってるのワタルくん!? 私たちはもう離れない関係なのよ!」

ワタル「何言っているんですか。それと暑苦しいんです! しかも、胸が背中に当たっているし!」

マミ「だって、当てているんですもの……(ノノノ)」

ワタル「(ダメだ、このマミ。もう手遅れだ…エリオアスムー助けて〜)」

エリオ「それと、キャラも何でくっ付くのさ!？」

キャラ「スキンシップだよ、エリオくん!」

エリオ「スキン!?!い、イヤ…けどさ」

キャラ「ダメかな？」

エリオ「(アスム、スバルさん、ティアさん助けて〜)」

アスム「大変ですね二人とも」

ティアナ「子供なんだから、今のうちに見といた方が良いわよ」

スバル「そういうけど、アスムも平気だよねーなんで？」

アスム「僕はアキラさん達とよく入ってますから。でも、何故がトドロキさん達に睨まれますが」

~~~~~

その5・メイドは主の下に

男風呂

バジンたん「さぁーご主人様〜お背中洗いましょうねー」

巧「何で、お前がここにいるんだああー!？」

バジンたん「簡単ですわ!私は貴方だけのメイドなんですよ!もつと親睦を深め、そして!」

巧「帰れ」

士「そういうなって、おいメイド。背中洗え」

バジンたん「誰が洗うか、このもやし野郎」

士「誰がもやしだ!」

バジンたん「あんた以外に誰がいるんだよ、このキモもやし。大体、私のご主人様の隣に座るんじゃないよ。あんたはコソ泥かクウキの隣に座っている」

士「殴って良いか?」

巧「俺が代わりに説教してやるから、落ち着いてくれ」

この後バジンたんは泣きながら士に謝り、女子風呂に戻りました。

タクミ「流石に僕のオートバジンはあんな事無いよね…」

ユウ・カズ・シン・翔『バジンたんの生乳を直視してしまった為、鼻血が止まらない』

~~~~~

その6・乳揉み魔王

はやて「ほな、早速乳も…じゃない、親睦深めてのスキンシップや
ー!」

10分後

はやて『

正座でプラカードに大きく『暫く自重します』と書かれ、その背後にレイジングハートとバルディッシュを構えている、魔…なの

はとフェイトとオクタヴィアの姿があった。

Wさやか・マミ・夏海・真理・バジンたん』
揉まれました。

~~~~~  
その7・ドS黒とドM黒

F黒まどか「毎日毎日、このド変態が人の下着を盗んでくるし！それで、怒って蹴っても……って、なに喜んでるんだ…ああん？」  
Fほむら「も、もつとおおおー！強くううううー！！！」  
まどか「なんか、怖い……」

ほむら（変態ほむらさん覚醒）「安心して、まどか。私が貴女を守ってあげるわ」（まどかの胸をほむほむ）

まどか（ドS覚醒）「このド変態があああああー！！！」  
（グーパン）  
ほむら「ほむん！」

Wまどかに蹴られ、殴られるWほむら。しかし、Wほむらはテレパシーでこう話した

Fほむら「 どう？まどかに罵倒され、殴られる感覚は…」  
ほむら「 もう、最高よ！」

……駄目人間同士の会話であった。

~~~~~

なのは「さて、皆リフレッシュ出来たかな？」

一同「はい」

Fまどか「皆でお風呂、楽しかったなあー」

Fさやか「こっちの本編やスピノフだと、皆で銭湯なんて無いからね」

F杏子「そりゃそうだ」

Fほむら「……」

バジンたん「あのタヌキ……今度あったら、轢き逃げアタック確定」

巧「ぶつちやけ、俺の存在薄かったな」

士「気にするな。大体、銭湯の話なんて野郎共より、あっちの方が良いんだ」

はやて「そんなこんなで、めでたしめでたし！」

一同「……急に締めるなあ！」

第2回！ 裸の付き合いは、色々楽しいよね！（後書き）

第2回目がまさかのコラボ！

亜雲AZさん作の『仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIK
A 〉THE LAST KNIGHT MISSION』及
び『仮面ライダー×魔法少女 555 MAGIKA 超スピノ
フ！』です！

いやあ…最初は流石に自分とのコラボは無いと思っていましたが、
まさか亜雲AZさんからコラボの誘いがあったので、やってみまし
た！

ですが、矢張り難しいです。亜雲AZさんのように上手く書けま
せん…ハッキリ言って、色々本当にすみません！

そして、これを見ている皆さん。知っている人もいると思いますが、
知らない人は亜雲AZさんの『仮面ライダー×魔法少女 555
MAGIKA 〉THE LAST KNIGHT MISSION』通称、『ファイマギ』の方を必ず見てください！物凄く面
白いです！

第3回！ クリスマスパーティーは楽じゃない

女性陣は全員ミニスカサンタ衣装、男性陣はトナカイ衣装

一同「「メリ〜クリスマス！」「」

士「そういう事で、今日のスピノフはクリスマスパーティーだ」
ユウスケ「いやあ〜こうして、皆とクリスマスパーティーは楽しい
ね」

エリオ「ええ、僕もこうして皆さんとパーティーするとはおもいま
せんでした！でも…どうして、僕の姿がミニスカサンタなんですが
？」

士「よし、今日は日ごろの鬱憤晴らしで、暴れるぞー」

ユウスケ「おっー！」

エリオ「華麗にスルー！？ちょっと、士さん！ユウスケさん！？」

その1 娘とおかん

杏子「……」

さやか「どうしたの杏子？ソワソワして？」

杏子「う、うん。実はさ、あたし。親父が教会の人間なのに、今ま
でまともなクリスマスやった事なかったからさ…その、どういうに
楽しめば分からなくてさ…」

さやか「（あんなのお父さん、神父なのに何やってるのよ）ハア…
そんな事だろうと思ったわ。はい、アンタの分持ってきたわよ」

つミックスピザ半分

杏子「うっ…さやかあああ〜〜〜〜〜!」(抱きつく)
さやか「ちよっ!ここで抱きつくな!そして、揺らすな!」
杏子「さやかあああ〜〜〜〜〜!」(聞いてません)
さやか「(…まったく、この馬鹿は…)」

揺らし過ぎて、持って来たピザを床に落とし、号泣する杏子にその娘を説教するおかん(さやか)の姿があった。

その2 かるたでGO!

フエイト「ハアアアアア !」
シグナム「でえええええい!」

カズマ「ねえ…折角のクリスマスののに、何でかるたなの?」
キャロ「なんでも、久しぶりに決着をつけようとか、なんとか」
カズマ「だからって、今ここでやること!?っーか、なんでかるた!?」
シンジ「えーっと、次は『刑事も歩けば蟹に食べられる』」
カズマ「シンジー!何今の!?そこは犬も歩けば棒に当たるじゃないの!?!」
二人「…そこかあああああー!」
カズマ「だからって、二人とも熱中しない!」
キャロ「ゲットです!」つ「刑事も歩けば蟹に食べられる」のカード
カズマ「って、キャロちゃんも参加しないの!いや、むしろあの二人より早く取った方が凄いや!」

その3 もう何も怖くないと言う名のロシアンルーレット

モモタロス』』へんじがない ただのしかばねのようだ

ソウジ「ん？どうしたんだ、食べないのか？」

マミ「今日は皆さんと一緒に作ったんです！」

シャマル「今日のは私の自信作なんですよ。ほっぺが落ちる位の美味しさです」

5つのカップケーキ。因みに、倒れているモモタロスのすぐ傍に、食べかけのカップケーキが転がっている

シヨウイチ「ほっぺどころが、命が落ちるわあああ ……！！！」

ワタル「（これ、どんな拷問？）」

幸太郎「（6つの内、残りは5つ…その内1つがシャマル作だな。）」

はやて「（ソウジさんとマミちゃんのは確かにほっぺが落ちる位の美味しさや…しかし！）」

キバット『（おい！誰が食べ！そして、先に逝ってくれえ〜〜〜！）』

シヨウイチ「（お前が逝け！この馬鹿コウモリ！）」

ワタル「（僕的には、はやてさん先に選んで下さい！）」

幸太郎「（そうだな。一応、シャマルの主なんだから、責任とってくれ！）」

はやて「（しゃーない…シャマルの料理は一応慣れているし…これも主の責任で食べたる…）」

左端のケーキを取る。
はやて「……………」

野郎共「「逝ったか」「」
はやて「う、うまい!？」

野郎共「「は、外したああああああ

「」

ソウジ「それ俺が作ったやつなんだ」

はやて「うう…カップケーキって、こんなに美味しかったんやな…
ごめんな、リンまだそっちには逝けへんわ…」

幸太郎「（くそっ！はやてが外した!）」

キバット「（残りは4つ！誰がシャマルのねーちゃんのやつ食って
くれ！百円あげるから!）」

シヨウイチ「（100円貰っても誰が食うか！こうなったら…アギ
トの力を）」

ワタル「（駄目ですからね！そんなアギトパワー使ったら、一発で
ソウジさんの引くんでしょ!）」

キバット「（…で、どうするんだよ?）」

幸太郎「（これ以上長引かせると、シャマルたちが困ってるぞ）」

ワタル「（この際です。皆さんで一斉に選んで一緒に食べましょう）
」

シヨウイチ「（そうだな。この手でいくか）」

4人「「「「せーの、これに決めたああああ

「!」「」

4人ともバラバラで選ぶ

幸太郎「（次は一緒に食うぞ）」

シヨウイチ「（適当に取ったが…この際だ。一緒に食べるフリをし
て他の連中が食った後で食うか…）」

ワタル「（適当に選びましたが、この際です。一緒に食べるフリをし
して、後で食べましょう…だから、ソウジさんのカップケーキに当
たります様に）」

キバット「（まだ死にたくねーし、食べるフリをして後で食うか）」

ソウジ「いいから早く食べ」
野郎共「……はい！」「」「」

ワタル『へんじがない ただのしかばねのようだ
シヨウイチ「(すまんワタル)」

幸太郎「(お前の事は忘れない…そして、珍しく助かった!)」
キバツト『(めっちゃうめえーw)』

ソウジ「それで、ワタル君はなぜ寝ているんだ？」
シャマル「医務室に連れて行きます？」
マミ「なら私が連れて行きますわ」

その5 変態サンタはご用心

ほむら「サンタさああああん！私は貴女が欲しいのよおおお
……！」

まどか「一々来るなあああ！このド変態がああああ
……！」(まどかりアットがほむらに炸裂)
ほむら「ほむ……！」

まどか「アンタさあ…この前のコラボで何変態に感染されてるのよ
…この馬鹿か…ああん？」(マジ狩るバツトを構える)

ほむら「ほむん(ハアハア)！」
ティアナ「(そう言うけど、アンタも感染されてるじゃない。黒く
なってるわよ)」

スバル「そんなことより、私はティアアの胸を揉みたい！」
ティアナ「何言ってるのよこのスバカ！！」(顔面グーパーン)
スバル「あ〜れ〜」

マジ狩るバットを構えて、お怒り顔のまどか様と倒れこむスバルの尻を踏み潰すティアナ。しかし、二人は念話でこう話していた

ほむら「（もう…まどかつたら、ああ言っているけど、照れてるのね…まどかは本当に可愛いわ！」

スバル「（ティアアもああ言っているけど、寝ている最中に揉むとも、もつと〜』って言うんだよ）」

ほむら「（なら今度まどかの寝ている最中に、揉んでみましょう…ふう。想像したら、鼻血が止まらないわ…）」

???「バカほむら…」

二人のマダオ（まるで ダメな オンナ 略してマダオ）に、一人女性は呆れていた

その6 王様であくれ？

はやて「てな訳で、みんなで王様ゲームや！」

フェイト「赤く塗られている箸が王様ね」

なのは「それ以外は番号が振られてて、1〜32…王様入れたら33本。」

士「説明しなくっても良いと思うが、王様を引いた奴は1〜32までの誰か命令出来る。しかし、下ネタ・セクハラ禁止な」

はや・バット「チツ…」

一同「（言う気満々だったんだな…こいつ等）」

はやて「…まあ、説明も終わったし始まるよー」

「…王様であくれ？」

ザファイラ（人型モード）「むっ？どうやら、私が王様だな…まいったな」

タクミ「どうしたの？ザファイラ」

ザファイラ「いや、私が王になるとは思わなくってな…どうしたもんか」

士「なら、俺が代わりに王になってやるぜ」

ザファイラ「……すみません、主。私が皆に命令してもよろしいでしょうか？」

はやて「ええよーゲームなんだし、たまには息抜きも必要や」

ザファイラ「…では、5番は15番を喜ぶ事をやってくれ。」

士「普通にスルーしやがった」

さやか（5番）「なぜ私が…」

はやて（15番）「うんうん！中々お似合いやなー」

はやての命にシスター服を着るさやか。（イメージ的には、『とあるシリーズ』のインデックスの衣装で）

さやか「あ、あははは…何でだろう…この衣装着てたら、無性に誰かの頭をかじりたい気分になってきた」

ワタル「はい、さやか。マミを差し出しますから思う存分かじって下さい」

マミ「なんで!?!」

ワタル「あつちのスピノフのところ、勝手に捏造して暴れて、拳句の果てには教祖開いた罰です。その命神に返しなさい。いや、返せ」

マミ「ワ、ワタルくんがうえええ〜ん!」

ワタル「では、うるさいのが黙りましたし、次始めましょう」

一同「「「いや、始める前に謝れよ」「」」

それから、マミを泣かした罪によってワタルはメイド服を着せられました。

「……王様であ〜れ?」「……」

さやか「私キタ　　!」「……」

翔太郎「で、どんな命令する気だ?」

さやか「4番と19番は今すぐ、コスプレだあ〜!」

フィリップ（4番・まどかの魔法少女衣装）「中々面白い衣装だ。

特に胸あたりは、違和感を感じない。」

シグナム（19番・かずみ マギカのかずみの魔法少女衣装）「私

は……その恥ずかしい」

まどか「小さくないもおおおお　　ん!〜!うわあああ〜」

~~~~ん!」

ほむら「まどかを泣かすなあああああ!〜!」（ギガントを発射）

さやか「バトルフィーバー!?!」（ギガントが直撃）

杏子「さやか!?!」

はやて「うんうん。相変わらずシグナムは、ええ乳やなあー揉みたい」

夏海「そんな事言ってる、また轢かれますよ?」

\*さやかは現時点では普通の人間です。でも生きてます

「……王様であ〜れ?」「……」

キバット「俺様の時代キター!」

士「よし、次行くぞー」

キバット『スルーすんなよ!』

翔太郎「オイオイ、流石に可哀想だろ?おい、駄コウモリ。何を言うんだ?」

キバット『31番と25番は、今すぐ墮天使の萌え萌えメイドさんコスプレだ』

〈10分後〉

キバット『どうしてこうなった?』

ソウジ(31番)「似合うか?」

(色気が全く無い誰得な三十路メイド。しかも、ミニスカ)

シヨウイチ(25番)「泣きたい!」

(以下同文)

その後、キバットは集団フルボコの刑に遭いました。

「王様であくれ?」「」

まどか「やった!私が…あれ?」

ほむら「私が王よ」

なのは「それで、どんな命令なの?」

ほむら「1番は私とキスしなさい」(ドヤ顔)

さやか「いや、あのね転校生…それは」

まどか「何でよりによって、私が1番なの…」

一同「何であああああ」

!?!?!

ほむら「さあさあ！王の命よ！私に愛の口付けをおおお  
！」

まどか「ちよつと、ほむ……」

????「いい加減にせんかあああああ  
！」

ほむらの頭に魔力で作られた矢が刺さる

カズマ「誰！？」

ワルプルギス「暁美ほむら……あなた、何調子に乗ってるのよ……ああ  
ん？」

一同「……ワルプルギスがキター！？」「」

ワルプルギス「この馬鹿！これじゃ、貴女に約束した私が馬鹿じゃ  
ないの……このマダオが！」

ほむら「誰がマダオよ、私は貴女と約束した覚えは……ほむっ！？」  
(グーパン)

ワルプルギス「うるさい！ほむらちゃんの馬鹿！このまま灰にする  
よ！」

まどか「灰どころがこのまま、存在その者抹消させるよ！」

フェイト「敵であるワルプルギスが普通に馴染んでない？」

幸太郎「むしろ、まどかがワルプルギスと同じくらいに黒くなつて  
ないか？」

キバット「しゃーねよ。だって、まどかのママは昔『ゴットウーザ  
様』と呼ばれ恐れられている存在だったらしいからなあー』

ユウスケ「何それ！？」  
キバット「しかもよ、特攻服着て木刀片手に振り回してレディース  
暴走族の女王として君臨してたって言うからなあー』」

その後、まどかとワルプルギスにボコされるキバットの姿があった。

しかもそれを見ていた一同に『邪神まどかと魔女ワルプルギスの最恐コンビだ!?!』と呼ばれていた。

その7 今日には敵味方関係なし

ジョーカー「すまん。我らの主が迷惑をかけた」

シヨウイチ「いや、こっちの馬鹿が暴走したせいだ。」

ソウジ「ああ、ところで君はお酒飲めるか?」

ジョーカー「ああ、それなりにイケル口だ」

シヨウイチ「大人同士、こっちで飲むぞ」

~~~~~

ワルプルギス「バカバカバカバカ! ほむらちゃんの大馬鹿あああ

!」(マウントポジションで殴る)

ほむら「(まどかじゃないのに、ビンビンに感じちゃう…ほむほむ)

」

杏子「今更言いますがあれ、性格変わってね?むしろ、ネタバレになっ
てない?」

士「なんのことだ?」

なのは「気のせいじゃない?」

杏子「気のせい通り越して、異常だああああ !あれ一応、

ネオ・バダンの右腕が早速暴走したよ!?!良いのあんなのが、敵だ

よ!」

はやて「まあまあ、今日はパーっと派手に行こうやないの」

一同「「おっー!」「」

そのあと、王様ゲームは朝まで大暴れしました。その命令で色んなコスプレ大会がありました

杏子（ミスアメリカコスプレ）「（色々ツツコミが多かったので、声が出ません）」

さやか（シスター服からくのー）「お似合いだよ、杏子」

マミ（牛）「何かの嫌がらせかしら？」

ほむら（ワルプルギスにフルボコされるも、スバルのバイアジャケットを着てます）「違和感がないわ」

まどか（チャイナドレス）「」

第3回！ クリスマスパーティーは楽じゃない（後書き）

久しぶりのスピントフです。

相変わらずのグダグダです。本当なら、専用武器の話や必殺技を考える話でしたが、クリスマスなので先にこっちを書きました。次回は… 専用武器か必殺技の話かな…

一部、ネタバレあるけど気にしないでね by .なのは

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9220y/>

仮面ライダー×魔法少女×魔法少女 ディケイド&リリカルなのは&まどか

2011年12月25日01時47分発行